クリーン四国

No.1189
2019年
4月号

平成31年度 四国森林管理局 重点施策を発表

【詳細は２頁】

目　次

・平成31年度 四国森林管理局事業概要の発表について …… 2
・あいさつ「四国森林管理局が開設20周年を迎えました」 …… 4
・治山・林道コンクール表彰式を行う …… 4
・入庁式 …… 6
・各地のたより …… 7
・新任者略歴紹介 …… 10

四国山の日

四国森林管理局
高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ 088－821－2052
ＦＡＸ 088－821－4834
Ｈ　Ｐ http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

平成31年度 四国森林管理局 事業概要の発表について

〈企画調整課〉

4月9日、平成31年度の四国森林管理局事業概要について記者発表を行いました。

今、四国では、大型製材工場や木質バイオマス発電所の相次ぐ稼働によって原木供給への期待が高まり、木材の生産・流通構造の変革につながるダイナミックな動きが生じています。

また、現在、多くの森林が収穫期を迎える中で、市町村の仲介による新たな森林管理システムや森林環境譲与税がスタートしたところです。このような中で、四国森林管理局は、その組織・人材・資源を最大限に活用し、地域の皆様と連携し、伐採・造林のトータルコストの削減、ドローン・ICTの新技術の積極導入、地域の安心・安全を守る山地防災力の強化、国産材の安定供給、地域の森林・林業を担う人材育成等の取組を積極的に推進し、地域の林業成長産業化に貢献してまいります。以下、平成31年度四国森林管理局の重点施策としての地域の林業成長産業化に向けた9の施策概要です。

【施策1】伐採・造林のトータルコスト削減の取組強化

通常、春季と秋季に限定されていた植付の通年作業を可能としたコンテナ苗の導入を拡大します。

また、通常、夏季に実施していた下刈り作業について、労働負担の軽減のため、期間を現行の「6月～10月」から「6月～12月」へ延長したり、実施回数を削減することなどにより、省力化を推進します。

さらに、苗木の標準的な植栽本数を、現行の1ヘクタール当たり3千本から千5百本～2千本とする低密度植栽等を推進します。

これら、伐採・造林作業にかかるコストの2～3割の削減を目指し、伐採・搬出から植栽の作業を一括発注する「一貫作業」及びこれらの作業を複数年（3年以内）で発注する「複数年契約」を積極的に推進します。

【施策2】ドローン・ICTの新技術の積極導入

これまで、多大な労力を要していた森林資源調査について、新たに、民間測量機器会社と連携し、国有林をフィールドにドローンによる森林資源調査システム（樹高、胸高直径等）の開発・実証を行います。また、地上型3Dレーザースキャナによる調査の実用化に向けた実証を推進します。

シカ等の捕獲のために設置しているわなの巡回作業の負担軽減に向け、ドローンや無線通信の活用を推進します。

【施策3】「夢の早生樹コウヨウザン三世代プロジェクト」の推進

成長が早く（30年で樹高約25ｍ）、植栽によらずとも切り株から萌芽する（萌芽更新）コウヨウザンについて、県・森林総合研究所林木育種センターと連携し、生産技術の確立に向けた取組を推進します。

【施策4】地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

平成30年7月豪雨等により被害を受けた箇所への山地災害復旧事業などを拡大実施します。

さらに、大規模な山地災害等が発生した際には、各森林管理署に配備しているドローンを活用し、地元自治体とのドローン活用災害活動連携協定に基づく民有林の被害調査等を行うなど山地防災力の強化に努めます。

【施策5】民有林と国有林の連携による国産材の安定供給

国有林と需要者が協定を締結し国有林材を安定供給するシステム販売を推進します。

また、木材を集積する中間土場を活用し、民有林材と国有林材をまとまった数量で販売するなどにより、国産材の安定供給を推進します。

【施策6】地域の森林・林業を担う人材育成

森林管理局職員を対象とした研修を活用した「市町村林業担当者実務研修」のカリキュラムを充実します。

また、県や市町村等が研修会を開催する際の講師派遣や国有林を活用した現地実習等により支援します。さらに、各地で、林業技術に関する現地検討会、ドローン講習会等を開催します。

【施策7】ヤナセ優良スギ人工林のブランド化の推進

ヤナセ天然スギの伐採・供給の休止を踏まえ、高知県馬路村魚梁瀬地区周辺の人工林スギをヤナセ天然スギの代替優良材と位置付け、関係機関と連携し、記念市等の開催や国有林モデル林の設定等により、ブランド化と付加価値の高い製品づくりに向けた取組を推進します。

【施策8】豊かな自然を育む森林の観光資源としての積極活用

自然体験型観光の取組等を後押しするため、遊歩道・多言語看板等の整備を推進します。

また、「四国の山々たんね歩記」（四国3県98箇所のイラストマップ）の活用を促進します。

【施策9】地域の課題への対応

高知県東部・西部の重要な地場産業である土佐備長炭（白炭）の原料であるウバメガシの資源確保のため、関係機関と連携し、原木生産技術の確立に向けた「ウバメガシ資源確保プロジェクト」を推進します。

徳島県三好市の「祖谷のかずら橋」の資材であるシラクチカズラの確保に向け、関係機関と連携し、国有林内への苗木の植栽、小中学生対象の「シラクチカズラセミナー」開催等を推進します。

高知県三原村で生産される良質な「三原米」を育む水源の保全と三原米のブランド化を推進するため、村と四万十森林管理署が締結した「三原米の里多様な森林づくり協定」に基づき、針葉樹の伐採跡地へのクヌギ等の植栽、森林とのふれあい等の活動を推進します。徳島県三好市の「祖谷のかずら橋」の資材であるシラクチカズラの確保に向け、関係機関と連携し、国有林内への苗木の植栽、小中学生対象の「シラクチカズラセミナー」開催等を推進します。

四国森林管理局が開設20周年を迎えました

去る3月1日、四国森林管理局が開設されて20周年を迎えました。四国森林管理局の歴史は、今から137年前の明治15年（1882年）の高知山林事務所の設置に遡ります。大正13年（1924年）に高知営林局、平成11年（1999年）に四国森林管理局に改組し今日に至ります。明治、大正、昭和、平成と長きに渡り地域の皆様に支えていただいたことに心より感謝申し上げます。

間もなく「令和の時代」がはじまります。林業界にとって平成は激動の時代でした。材価は昭和55年をピークに下がり、木材自給率は平成14年に19％まで下がりましたが、その後、国産材への回帰が進み、平成29年には36％まで回復しています。平成22年に公共建築物木材利用促進法、平成28年にCLT建築基準が施行され、昨年、民間企業より2041年に地上350m、70階建ての木造超高層建築物を建設するという夢のような構想が発表されました。平成は保育間伐の時代でしたが、新たな時代は、山の資源が充実し、工夫次第で山を活かして地域を元気にしていくことができる時代です。今年度から新たな森林管理システムと森林環境譲与税もスタートします。

四国森林管理局は、新たな時代においても、その組織・人材・資源を最大限に活用し、率先して伐採・造林コストの削減、ドローン・ICT等の新技術の導入、地域の森林・林業を担う人材の育成、山地防災力の強化等の取組を進め、地域の林業成長産業化に貢献してまいります。地域の皆様に国有林があってよかったと思っていただけるよう努力してまいりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

四国森林管理局職員一同

（参考）四国森林管理局の沿革

明治15年（1882年）
高知山林事務所設置
明治19年（1886年）
高知大林区署・愛媛大林区署設置
大正13年（1924年）
高知営林局設置
平成11年（1999年）
四国森林管理局設置

治山・林道コンクール表彰式を行う

◇優良工事施工業者・技術者・監督職員を表彰

〈総務課・治山課〉

平成30年度治山・林道工事コンクールの表彰式を3月12日に四国森林管理局2階大会議室において行いました。

このコンクールは平成29年度に施工した工事を対象に、有識者などで構成する審査委員会により、事業効果の発現が顕著な工事の中から優良工事が選定され、その内容が良好で他の模範に当たると判断された、治山工事4社、林道工事4社に対して局長表彰を行いました。

また、特に優秀な工事として、林野庁へ推薦した2社の工事が、林野庁長官賞（治山工事1社、林道工事1社）を受賞されたことから、当該工事の担当技術者並びに監督職員に対し、局長表彰を行いました。受賞者は次のとおりです。

◆林野庁長官賞

○南小川地区沖（下）地すべり防止工事　《嶺北森林管理署発注》
高大建設株式会社
代表取締役　山崎　一志

○桧曽原林道改良工事（翌債）　《四万十森林管理署発注》
有限会社十和建設
代表取締役　松下　充宏

◆四国森林管理局長賞

【工事表彰】

○阿津江地区阿津江（Cブロック）地すべり防止工事（翌債）　《徳島森林管理署発注》
株式会社山全
代表取締役　牛尾　正治

○滝山（54）復旧治山工事　《香川森林管理事務所発注》
大西建設株式会社
代表取締役　衣斐恵美子

○仁尾ヶ内山（45）復旧治山工事（国債）　《嶺北森林管理署発注》
明治建設有限会社
代表取締役　山中　巨司

○西谷山（1008）災害関連緊急工事（翌債）　《安芸森林管理署発注》
有限会社金本組
代表取締役　金本　太

○三森林業専用道新設工事　《愛媛森林管理署発注》
協業組合テスク
代表理事　池本　成志

○猪野々山（12）災害関連緊急工事外（翌債）　《高知中部森林管理署発注》
有限会社西野建設
代表取締役　西野　桂

○楮佐古林道改良工事（翌債）　《高知中部森林管理署発注》
片田丸吉建設工業株式会社
代表取締役　山崎　秀治

○二の谷林道災害復旧工事（明許）　《安芸森林管理署発注》
魚梁瀬産業有限会社
代表取締役　五百蔵浩二

【技術者表彰】

○南小川地区沖（下）地すべり防止工事
現場代理人
主任技術者　澤田　潤作
（高大建設株式会社）
監督職員　宮岡　卓
（嶺北森林管理署）

○桧曽原林道改良工事（翌債）
現場代理人　宮脇　浩明
主任技術者　林　准市
（有限会社十和建設）
監督職員　岡本　英典
（四万十森林管理署）

入庁式

〈総務課〉

4月1日、平成31年度新規採用者8名の入庁式が行われました。

野津山喜晴局長より辞令が手渡され、入庁者を代表して、辻周子さん（四万十署）が宣誓を行いました。

局長からは、新社会人となった8名に、

『皆さんには、これから国有林の職員として、森林・林業の成長産業化に向けて取り組むことはもちろん、地域住民の安全・安心を守り、地域社会に貢献していくなど大切な使命があります。

職場にそれぞれ配属され、国有林というフィールドを活かし様々なことに挑戦して下さい。

分からないことも多くあるでしょうが、職場の先輩方に遠慮なく聞いて覚えてください』と訓示がありました。

入庁おめでとうございます。

前列右側から

辻　周子さん（四万十署）
田村ひかるさん（整備課）
岡﨑　卓子さん（経理課）
白石　快さん（愛媛署）
野津山喜晴局長
渡邉　憲太さん（徳島署）
竹田　一葵さん（安芸署）
斎藤　哲也さん（嶺北署）
西尾　絢乃さん（総務課）

広島森林管理署 治山現場視察

〈治山課〉

平成31年3月13日～15日にかけて、広島森林管理署管内の治山現場へ視察に行きました。

この視察は、近年の集中豪雨や地震等に起因する激甚な山地災害の発生リスクを踏まえ、緊急時の応急対策や早期復旧の取組について、知見・習得するため、現場経験の少ない若手技術職員7名が参加しました。当日は、広島森林管理署次長、総括治山技術官、山地災害復旧対策室長案内のもと、平成30年7月豪雨で大規模な被害を受けた東広島市黒瀬地区（民有林直轄治山事業）や、平成26年広島豪雨災害の復旧事業を行っている広島市安佐南地区（国有林野直轄治山事業）を訪れました。

昨年の7月豪雨で被害を受けた東広島市黒瀬地区では、多くの林地崩壊箇所が発生しており、その一つで

東広島市黒瀬地区（大学キャンパス上流、応急対策施工箇所）

は、土石流の発生で複数の既設堰堤が決壊しているなど、自然の猛威を目の当たりにしました。山地災害復旧対策室長からは、災害の発生経緯や現在検討している復旧工法等の説明がありました。崩壊地の直下に大学キャンパスや人家があり、施工に伴う騒音や、流水・流末処理といった課題など、四国局の現場ロケーションとの違いはありましたが、緊急応急対策や早期の復旧対策の重要性に大きな違いはないと感じました。

今回、四国から広島県への移動の道すがら、車窓から7月豪雨による災害の爪痕が多く確認できました。四国でもいつ大災害が起こるか分かりません。予期せぬ事態にも迅速に対応できるよう、今回学んだ災害への取組を今後の災害対応や復旧へ活かすべく努力していきたいです。

今回の視察でお世話になりました近畿中国森林管理局治山課、広島森林管理署の皆様には、この場をお借りして御礼申しあげます。

現地視察状況

広島市安佐南地区（ソイルセメント谷止工施工箇所）
※ソイルセメント谷止工とは、中詰材に現地の土石とセメントを混合し利用した谷止工

各地のたより 目次

林業人材育成へ 「就業体験学習に関する覚書」を締結
「年間を通した森林環境教育の最終回は炭焼き体験」
局食堂への感謝

林業人材育成へ「就業体験学習に関する覚書」を締結

〈愛媛森林管理署〉

3月22日、愛媛大学農学部と愛媛森林管理署は、インターンシップ（就業体験）に関する覚書の締結式を愛媛森林管理署にて行いました。

これは、愛媛大学と四国森林管理局との「連携と協力に関する協定」（平成26年）に基づくものであり、これまで、当署は、修士論文・卒業論文発表会やセミナーへの参加などを通じて、同学部と様々な場面で係わりを持ってきました。

インターンシップの受け入れについても、四国局では行われているものの、高知市での開催となるため、学生に色々な負担が掛かるという意見もあり、当署での実施について検討していたところ、同大学から、毎年継続した取組として受け入れを検討願えないかとの話があり、当署としても林野庁への就業希望者の拡大や講師自身のスキル向上に繋がる話であり、双方の思いが一致したことから、今回の覚書締結の運びとなったものです。

締結式には、同大学から、山内聡・農学部長、伊藤和貴・森林資源学コース長、大塚陽介・農学部事務課総務チームリーダーが出席し、当署からは、間島署長、藤原次長、谷本森林技術指導官ほか多数の職員が参加しました。

締結後、山内学部長からは、「林業は生物や化学、地学から経営や経済

までを含む巾の広い実学。インターンシップをＰＲし林業を支える人材を本学で育てたい」と挨拶があり、間島署長からは、「ヒノキ生産日本一など有数の林業県である愛媛の森林・林業・木材産業を担う人材を育てることも署の大事な役割」と応えました。

署名を終えて

左：間島署長、右：山内農学部長

覚書の締結をスタート地点として、インターンに参加した学生が、「林業・木材産業に携わってみたいな」と思えるようなメニューとなるよう、全職員で取り組んで参ります。

覚書は「樹（き）の紙」（ひのき）

「年間を通した森林環境教育の最終回は炭焼き体験」

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

愛媛県松野町立松野西小学校の４年生19名を対象にした年間を通した森林環境教育も最終回（第６回目）となり、３月12日に身近な材料を使った簡易な方法での炭焼き体験を実施しました。

はじめに、炭の種類や利用方法、炭の特性について説明を行い、続いて炭焼き体験に移りました。児童達は職員から手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中にマッボックリやドングリ、使わなくなった鉛筆、折り紙など思い思いの物を入れ隙間にモミ殻を詰めてドラム缶のたき火の中へ並べました。併せて、アルミホイルに包んだサツマイモが炭になるかどうかも実験しました。

炭になるまでの待ち時間で色々な炭の実物を観察してもらいました。白炭や黒炭を万力に挟んでノコギリで切断する実験では黒炭はスパッと切れたのに対して白炭は堅くて切断することが難しいことがわかりました。

また、白炭の備長炭を木のバチで叩くと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な金属音がするので、児童達が叩いて即席のミニ演奏会もしました。

約25分経って、ブリキ缶を開けると折り紙やドングリ、マッボックリなどがちゃんと「炭」になっていて実験は大成功でした。次に、芋を包んだアルミホイルを開けて見ると、サツマイモは皮の表面だけが黒く焦げ、炭にはならず実験は失敗でしたが、ほくほくの「焼き芋」ができあがりみんなでおいしく食べました。

終わりの挨拶の場面で、児童達から当センターにお礼状をいただきました。「森林にはいろいろな働きがあることを知りました。たとえば、きれいな空気を作ることです。汚い空

気があると地球が汚れてしまうけど木のおかげで地球の空気が汚れなくてきれいになるからです」また、「実体顕微鏡でミミズを見ると体内まで見えたことがおもしろかったです。土にすむ生物の学習が心に残りました」等と感想が添えられていました。

このことから、年間を通した森林環境教育で、教職員へのアンケート結果や児童の作文等を分析、教職員と交わす話の中から推測すると、児童達は森林環境教育を重ねるに連れ森林の大切さについての理解や自然への興味が湧き、森林や木と親しんだことにより木材利用への理解が深まったと考えられます。

また、学校によると3年生から4年生に進級するのが楽しみとのことで、当センターとしても森林環境教育への取組を決意新たに進めていきたいと考えています。

簡易な炭焼きの様子

白炭（備長炭）で即席のミニ演奏会の様子

色々な炭の観察と白炭や黒炭の切断実験の様子

ブリキ缶から取り出すと炭になったマツボックリ

失敗作の焼き芋はおいしい

局食堂への感謝

思えば私たち職員一同にとっては、当たり前のようにそこにあり、いつでも昼食ができるそんな存在でした。

この3月に、50余年の永らくの営業に幕を閉じることとなり残念でまた寂しく感じています。

私達職員の胃袋をつかんで離さず、日々利用をさせていただき、また、職員同士の交流の場となるなど思い出がたくさんたくさん、つまっております。

こうした歴史ある食堂がなくなることは非常に寂しいことです。また、再開できればと願う気持ちが未だに消えません。

これまで、食堂でお世話になりました皆様、今まで長い間私達をもてなしてくださって本当に有り難うございました。

本当に長い間有り難うございました。

●職員からの一言●

いつも温かい食事を提供してくれてありがとうございました。

ボリューム満点の食事に大満足でした。

単身赴任の強い味方でした。

いつも美味しい昼食を食べることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

長い間お疲れ様でした。

新任者略歴紹介

計画保全部長

河合　正宏

- 平成３年４月
  林野庁指導部治山課
- 平成29年４月
  林野庁森林整備部研究指導課
  技術開発推進室長
- 平成31年４月　現職

徳島森林管理署長

川上　伸一

- 昭和56年４月
  熊本営林局　内之浦営林署採用
- 平成29年４月１日
  近畿中国森林管理局
  石川森林管理署長
- 平成31年４月　現職